

■ 概況

10/5～10/11のNYMEX・WTI先物市場は82.31～86.38ドルの範囲で推移した。

10月12日は、米国石油在庫報告で、原油在庫が予想を大きく上回る積み増しがあったことで、米国需給の緩和観測が広がり、3日続落した。イスラエルとイスラム組織ハマスの衝突は大きな影響はなかった。11月物終値は前日比0.58ドル安の82.91ドル。

週末13日は、パレスチナの戦闘激化・地上戦突入観測で、地政学リスクが高まり、湾岸産油国への影響が懸念されるに至り、4日ぶりに大幅反発した。11月物終値は同4.78ドル高の87.69ドル。

週明け10月16日は、米国とベネズエラが、来年のベネズエラ大統領選の民主的実施を条件に、現行の経済制裁を緩和することで合意したとの報道で、需給ひっ迫感が緩和され、反落した。ただ、パレスチナ情勢の緊迫もあり、下値は固かった。11月物終値は同1.03ドル安の86.66ドル。

17日は、ハマスとイスラエルの戦闘が激化する中、明日のバイデン大統領のイスラエル訪問を前に、市場は様子見ムード、ポジション調整の売り買いが交錯し、価格は横ばいだった。11月物終値は、前日比横ばいの86.66ドル。

18日は、ガザ地区の病院で爆発・多数の民間人に死傷者が発生し、バイデン大統領はこの日のヨルダン訪問・アラブ各国首脳との会談を延期するなど、中東をめぐる緊張が一段と高まり、供給不安から、3日ぶりに反発した。また、米国石油在庫報告で前週末在庫が市場予想を上回る取り崩しとなり、需給緩和感が後退したことも値上がり要因となった。11月物終値は前日比1.66ドル高の88.32ドル。

中東産ドバイ原油/東京市場（12月渡し）は、10月5日～11日の間、85.70～89.10ドルの範囲で推移。10月12日88.00ドル、13日88.40ドル、16日91.60ドル、17日91.20ドル、18日92.70ドル。

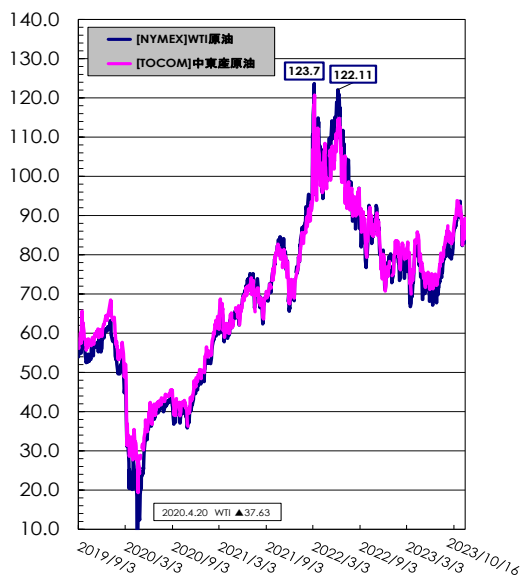
対ドル為替レート（TTM）は、10月5日～11日の間、148.60～148.87円の範囲で推移。10月12日149.26円、13日149.94円、16日149.60円、17日149.59円、18日149.85円。

そのような中で、10月16日時点の価格は、ガソリンが前週比2.2円の値下がり、軽油も同2.2円の値下がり、灯油は同28円の値下がり（18リットルベース）。ガソリン・灯油・軽油ともに6週連続の値下がり、ガソリンの全国平均価格は174.7円となった。

10月5日から燃料油価格激変緩和補助金は一段と拡充され、10月19日～25日の補助金の支給額は34.8円（補助金がない場合の次週予想価格209.6円、従来の基準価格168円から185円までの17円部分は60%支給で10.2円、185円を超える部分は100%支給で24.6円）となった。

原油		今週	前週比	前年比
需給	原油処理量 (千kl)	10/8～10/14	2,672 ▼ -128	▼ -
	トッパー稼働率 (%)	"	72.1 ▼ -3.5	▼ -
	原油在庫量 (千kl)	10/14	10,314 ▼ -668	▼ -
価格	中東産原油(TOCOM) (\$/bbl)	10/16	89.28 ▲ 3.14	▲ 1.4
	WTI原油(NYMEX) (\$/bbl)	10/16	86.66 ▲ 0.28	▲ 1.2
	原油CIF単価 (\$/bbl)	9月中旬	86.80 ▲ 2.52	▼ -24.06
	①原油CIF単価 (¥/kl)	"	80,008 ▲ 2,787	▼ -17,563
	②ドル換算レート (¥/\$)	"	146.54 ▼ -0.86	▼ -6.61
	外国為替TTSLレート (¥/\$)	10/16	150.60 ▼ -1.00	▼ -0.99

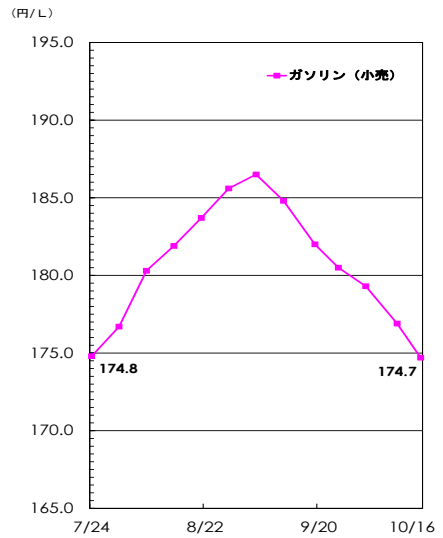
(\$/b)



(単位: 千kl、円/%)

ガソリン		今週	前週比	前年比	
需給	生産	10/8 ~ 10/14	854 ▲ 36	▲ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	626 ▼ -88	▼ -	
	輸出	"	122 ▼ -34	▲ -	
	在庫	10/14	1,728 ▲ 105	▲ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	10/10 ~ 10/16	71.8 ▼ -2.2	▼ -3.4	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	10/10 ~ 10/16	76.8 ▼ -2.2	▶ 0.0
		(TOCOM/中部)	10/16	78.5 ▶ 0.0	▲ 4.3
	小売 [週動向] (資工庁公表)	10/16	174.7 ▼ -2.2	▲ 5.6	

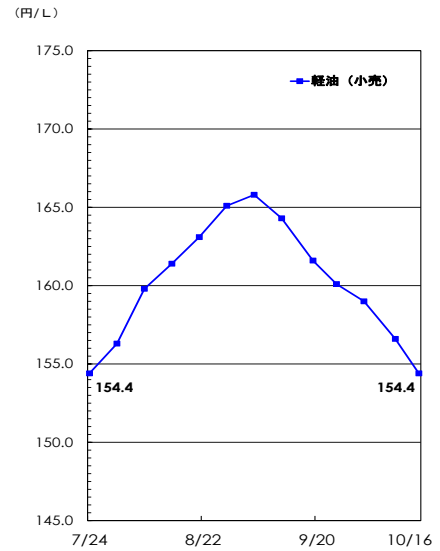
※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

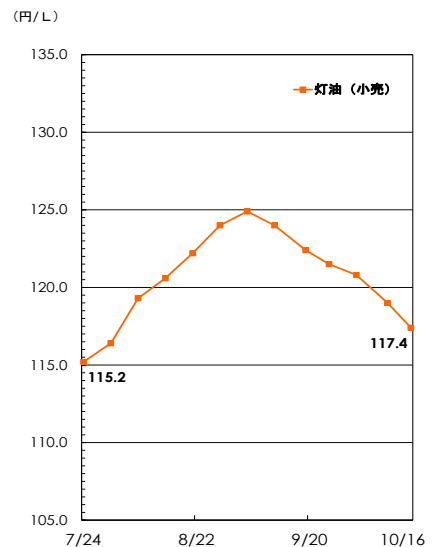
軽油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	10/8 ~ 10/14	693 ▼ -31	▲ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	530 ▼ -112	▲ -	
	輸出	"	97 ▲ 13	▼ -	
	在庫	10/14	1,384 ▲ 66	▲ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	10/10 ~ 10/16	71.6 ▼ -2.6	▼ -5.4	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	10/10 ~ 10/16	77.3 ▼ -2.7	▼ -0.8
		(TOCOM/中部)	10/16	-	-
	小売 [週動向] (資工庁公表)	10/16	154.4 ▼ -2.2	▲ 5.3	

※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

灯油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	10/8 ~ 10/14	204 ▲ 26	▼ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	37 ▼ -3	▼ -	
	輸出	"	99 ▲ 88	▲ -	
	在庫	10/14	2,949 ▲ 69	▲ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	10/10 ~ 10/16	71.8 ▼ -2.5	▼ -6.2	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	10/10 ~ 10/16	75.8 ▼ -2.7	▼ -5.2
		(TOCOM/中部)	10/16	78.0 ▶ 0.0	▲ 1.2
	小売 [週動向] (資工庁公表)	10/16	117.4 ▼ -1.6	▲ 5.1	



■ 関連情報

1 海外/原油

当週(10月12日~18日)のWTI石油先物市場は、12日に3日続落の82.91ドルで始まったものの、13日にはハマスとイスラエルの軍事衝突激化もあり大幅反発、週明け16日は対ベネズエラ経済制裁緩和報道で反落、17日は横ばい、18日は反発し、88.32ドルで終わるとい、不安定な動きであった。

祝日の関係で一日遅れの10月12日発表となった6日時点の米国エネルギー情報局(EIA)の米国国内週間在庫統計によれば、原油在庫は前週比1020万バレル増と、市場予想(同50万バレル増)を大きく上回る積み増しだった。また、18日発表の13日時点の同統計によれば、一転して、原

油在庫は前週比450万バレル減と、市場予想(同30万バレル減)を大きく上回る取り崩しだった。

EIAによると、10月16日時点で、ガソリンの小売価格は、前週比10.8セント安の1ガロン3.576ドル(142.1円/ℓ)と4週連続の値下がりで、ディーゼル小売価格は、前週比5.4セント安と2週連続の値下がりの1ガロン4.444ドル(176.6円/ℓ)。

ベーカーヒューズ社によると、米国国内稼働石油掘削装置は、10月13日時点で、前週比4基増の501基と4週ぶりの増加。

2 国内/製品需給 (1) 出荷

石連週報によれば、2023年10月8日~10月14日に休止したトッパー能力は36.0万バレル/日で、前週に対して7.5万バレル/日増加した(全処理能力は333.1万バレル/日)。

原油処理量は267.2万klと、前週に比べ12.8万kl減少。前年に対しては21.0万klの減少。トッパー稼働率は72.1%と前週に対して3.5ポイントの減少、前年に対しては5.7ポイントの減少となった。

生産は前週に比べて軽油が減産となり、その他の油種で増産となった。ガソリン/4.4%増、ジェット/2.4%増、灯油/14.9%増、軽油/4.3%減、A重油/1.8%増、C重油/5.5%増。今週のC重油の輸入は0.7万kl(前週比0.7万kl増)。軽油の輸出は9.7万kl(前週比1.3万kl増)。

出荷(輸入分を除く)は全ての油種で減少した。前年比では軽油が増加し、その他の油種で減少した。ガソリンの出荷は62.6万kl(対前週12.3%減)と2週振りに減少した。

ジェット0.2万kl(対前週94.4%減)、灯油3.7万kl(対前週7.7%減)、軽油53.0万kl(対前週17.4%減)、A重油15.8万kl

(対前週9.8%減)、C重油14.2万kl(対前週14.9%減)。

(単位:千kl)

	今週 (10/8 ~ 10/14)	前週 (10/1 ~ 10/7)	前週比
ガソリン	626	714	▼ -88 (-12%)
ジェット燃料	2	30	▼ -28 (-93%)
灯油	37	40	▼ -3 (-8%)
軽油	530	642	▼ -112 (-17%)
A重油	158	175	▼ -17 (-10%)
C重油	142	167	▼ -25 (-15%)
合計	1,495	1,768	▼ -273 (-15%)

※今週出荷量 = (前週末在庫 + 今週生産 + 今週輸入) - (今週輸出 + 今週末在庫)

2 国内/製品需給 (2) 在庫

10月14日時点の在庫はA重油、C重油が取り崩しとなり、その他の油種で積み増しとなった。前年に対しては全ての油種で増加した。

ガソリンは172.8万kl、前週差10.5万kl増。前年に対しては13.5万kl多い。

灯油は294.9万kl、前週差6.9万kl増。前年に対しては67.9万kl多い。

軽油は138.4万kl、前週差6.6万kl増。前年に対しては10.2万kl多い。

A重油は78.1万kl、前週差2.0万kl減。前年に対しては5.0万kl多い。

C重油は196.4万kl、前週差4.1万kl減。前年に対しては12.5万kl多い。

(単位:千kl)

	今週 (10/14)	前週 (10/7)	前週比
ガソリン	1,728	1,623	▲ 105 (6%)
ジェット燃料	921	882	▲ 39 (4%)
灯油	2,949	2,880	▲ 69 (2%)
軽油	1,384	1,318	▲ 66 (5%)
A重油	781	801	▼ -20 (-2%)
C重油	1,964	2,005	▼ -41 (-2%)
合計	9,727	9,509	▲ 218 (2.3%)

3 国内/製品卸売価格 (1) 元売会社 仕切価格改定動向

10月10日～16日のドル建て中東原油価格は値上がりし、為替レートは横ばいで、元売会社の卸価格建値は1.0円の値上がりになったものと見られる。

上記コストに先週の補助金額34.5円を加え、今週の補助金34.8円を差し引いた、10/19～10/25の実質卸価格は0.7円の値上げとなった模様。

3 国内/製品卸売価格 (2) 業転価格・先物価格動向

10月10日～16日の製品スポット市況は、10月3日～9日平均と比べ、全ての油種・取引で値下がりました。

直近週(10/10～10/16)の陸上スポット価格平均値は、前週(10/3～10/9)比で、ガソリンは2.2円の値下がり、灯油も2.5円の値下がり、軽油も2.6円の値下がりだった。

東京湾渡しの海上スポット平均価格は、直近週(10/10～10/16)に、前週(10/3～10/9)比で、ガソリンは2.3円の値下がり、灯油も3.4円の値下がり、軽油も3.1円の値下がりだった。

先物価格の平均は、前週比で、ガソリンは2.2円の値下がり、灯油も2.7円の値下がり、軽油は2.7円の値下がりだった。

(RIM)		(単位: 円/%)		
(陸上ローリー4地区平均)	今週 (10/10～10/16)	前週 (10/3～10/9)	前週比	
レギュラー	71.8	74.0	▼ -2.2	
灯油	71.8	74.3	▼ -2.5	
軽油	71.6	74.2	▼ -2.6	

(TOCOM)		(単位: 円/%)		
(期近物/終値[平均])	今週 (10/10～10/16)	前週 (10/3～10/9)	前週比	
レギュラー	76.8	79.0	▼ -2.2	
灯油	75.8	78.5	▼ -2.7	
軽油	77.3	80.0	▼ -2.7	

※上記価格は税抜き価格

参考値 (10/10～10/16実績値) (単位: 円/%)			
油種	現物	先物	平均
ガソリン	▼ -2.2	▼ -2.2	▼ -2.2
灯油	▼ -2.5	▼ -2.7	▼ -2.6
軽油	▼ -2.6	▼ -2.7	▼ -2.6
A重油	▼ -2.8		

(出所) 現物: RIM社陸上ローリー4地区平均価格

(千葉・川崎・中京・阪神)

先物: TOCOM京浜地区海上バージ渡し平均価格

4 国内/製品小売価格

10月16日時点のSS店頭価格は、ガソリンが前週比2.2円安の174.7円、軽油も2.2円安の154.4円、灯油も18%ベースで28円安の2,114円(1%ベースでは1.6円安の117.4円)。ガソリン・軽油・灯油ともに6週連続の値下がりだった。

ガソリンについて、都道府県別には、値上がりが滋賀県・徳島県、横ばいはなし、値下がりが45都道府県だった。全国最安値は岩手県の167.1円、その次は北海道の167.9円であった。他方、最高値は長崎県の186.2円だった。最も値下がりがしたのは沖縄県(同4.8円安)、最も値上がりしたのは滋賀県・徳島県(ともに同0.2円高)だった。

次回調査時(10/23)のガソリンの小売価格は、値下がりが予想される。

(資工庁公表)		(単位: 円/%)			
[週動向]	今週 (10/16)	前週 (10/10)	前週比	直近高値	
レギュラー	174.7	176.9	▼ -2.2	23/9/4	186.5
灯油	117.4	119.0	▼ -1.6	08/8/11	132.1
軽油	154.4	156.6	▼ -2.2	08/8/4	167.4

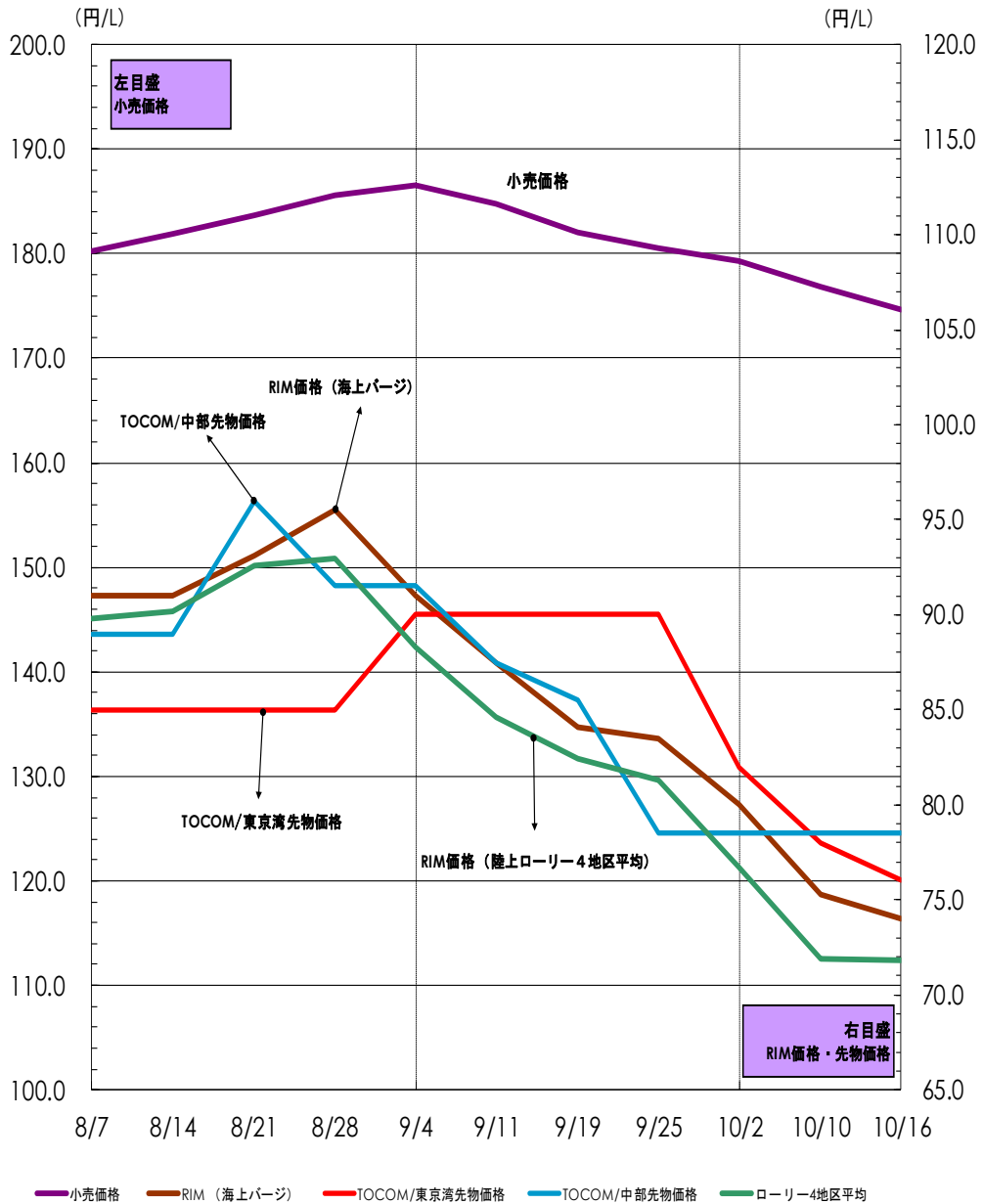
※ 現金一般価格の全国平均値 (消費税込み)

07年4月以降 2,000店舗を対象。

直近高値とは2004年6月以降の最高値。

ガソリン価格推移

(2023/8/7 ~ 2023/10/16)



(注)①「小売価格」は消費税込みの価格 RIM価格・TOCOM先物価格は税抜き価格
 ②RIM価格(陸上ローリー)は4地区平均価格

■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ (<https://oil-info.ieej.or.jp>) にも掲載しています。
次回(2023第28号)の公表は、10/27(金)14:00です。

本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報(以下、併せて「ドキュメント」)に関わるすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター(以下、当センター)又は当センターヘドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。

当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。

また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課 主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告で、「わが国石油産業における市場機能、価格発見機能が更に強固なものとなることが望まれるとともに、中期的な課題として、石油産業において確立していく市場機能、価格発見機能に基づく合理的な価格認識及びそれを踏まえた自己責任の下での経営判断の必要性について、石油産業関係者の認識が更に深まることにより、わが国の基幹産業である石油産業全体としての合理性、活力が一層高まることを期待したい。」と提案されています。

当センターでは、これを受けて石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力を得て、石油関係者、企業の経営者層(特に給油所経営に携わる方々)から一般消費者の方々に対し、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

本レポート掲載データの出所について

①【原油・石油製品需給】〈石連週報〉

石油連盟(石連)「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。

「出荷」は当センターの推計。

②【原油・先物価格】〈WTI原油、中東産原油〉

WTI原油は、ニューヨーク商業取引所(New York Mercantile Exchange : NYMEX) WTI原油先物の期近物・終値を採用。

中東産原油は、東京商品取引所(The Tokyo Commodity Exchange : TOCOM) 中東産原油の期近物・終値を採用。 ※「二番限(翌月限)」

中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格を指標としている。為替換算レートとして、三菱UFJ銀行発表TTM(Telegraphic Transfer Middle rate : 中値)を採用。

原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」(旬間値)を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

③【国内製品・元売仕切価格】

元売仕切価格は、元売会社(一次卸)と系列特約店など(二次卸)との間で売買される卸価格。

元売会社は、平成22年4月以降、現行の新価格体系を見直し、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断し、具体的方針を決める方式に変更。さらに平成26年6月以降、原油コストをより重視する方式に変更している。

④【国内製品・業転価格】〈RIM業転〉

国内陸上ローリー価格は、リム情報開発株式会社(RIM)「LORRY RACK・レポート」の千葉、川崎、中京、阪神の4地区の平均値を採用(いわゆる4RIM価格とは異なる)。

⑤【国内製品・先物価格】〈TOCOM〉

TOCOM 東京湾及び中部石油製品期近物・終値を採用。

TOCOM東京湾は京浜地区海上バージ渡し価格(平均値)、TOCOM中部は中部地区陸上ローリー渡し価格(平均値)。

⑥【国内製品・小売価格】〈週動向調査〉

約2,000SSを対象に週次ベースのSS店頭における店頭現金価格の全国平均値を採用(資工庁公表)。原則として、毎週(月)時点の価格を調査し(水)14:00に公表(資源エネルギー庁HPに掲載)。